



箴言を書くソロモン Gustave Doré

箴言の後半部を占めるソロモンの格言集は戒めを与える対象は子と特定していません。上に立つ者、さらに王にも与えています。新共同訳聖書では韻文らしい美しさを保ち、繰り返しがあっても、文脈があっています。各章ごとに主題があり、変化があります。読物としても楽しさを与えます。格言と言っても日常生活に利する「早起きは三文の得」的な句は全くなく、知恵を求めても、正しさだけではなく慈しむ気持ちを持つことが大事であることが全体のテーマとなっています。基本的には神を畏れ、神の前に歩む生き方を伝えています。

どのような知恵も、どのような英知も、勧めも/主の御前には無に等しい。

戦いの日のために馬が備えられるが/救いは主による。(箴 21:30)

どんな知恵者であっても、知恵によっては救われず、神の救いにすがりしかないと述べています。各章のポイントをまとめました。

章	ポイント	戒めと勧め
10	神に従う人	神に従う人の受ける祝福を、逆らう者の悪と12の対にして歌い上げている。
11	正義と公正	天秤、おもりを正しく使い公正、正義を守ること以上に、慈善こそ救いとなる。
12	知恵の言葉	思慮深く、真実、親切な言葉、口言葉が結ぶ実こそ大切。
13	諭し	諭し、叱責、勧め、教え、鞭を受けて、知恵を得る
14	無知	傲慢、欺き、不遜、迷い、二心、短気は無知のわざで、罪、恥となる、
15	応答の仕方	柔和な応答、癒しの言葉、忍耐により、計画の道が開かれる。
16	心構え	心、精神、魂を主によって守り、忍耐、自制の力によって道を歩め。
17	良い家庭	愚息は父の悩み、母の苦しみ。貧乏でも平安と愛あれば家に喜びがある。
18	離反する者	我欲のために仲間割れ、仕事に手抜き。悪口、訴え事、争う口は破滅をもたらす
19	財産	家と財産は先祖からの嗣業。欲望は恥。勤勉に励み、弱者を憐れむ事が真の富。
20	王の心得	目と耳で人の行動の真偽を見極め、助言を受け、準備をもって行動し、報復は主に任せよ。慈しみとまことは王座を守る。
21	心、目、耳、口	高慢な目、傲慢な心、弱者に耳を閉ざし、嘘、諍い好きな口は罪である。
22	品位と名誉	身を低くし、傲慢、不遜をさげ、清い心、思慮深さを愛するのは金銀に勝る品位。
25	上に立つ者	時宜、立ち位置をわきまえ、むしろ敵対する者の必要を満たせ。
26	悪露見	虚栄、陰口、悪意、憎悪、欺瞞などの悪は隠そうとしても露見する。
27	評価	妬みを受けないように。自画自賛するのではなく、称賛は他人から受けよ。
28	罪の隠匿	罪を隠している者は栄えない。罪を告白し、罪を捨てる者は憐れみを受ける。
29	弱者、貧者	神は弱者、貧者、愚か者、虐げる者らの訴えを聞き、彼らにも光を与えている。

22章から24章にかけて賢人の言葉が挿入されていて、コンパクトに要点を記しています。そして最後の30章に、アグルの託宣という部分がありますが、世の邪悪、人間の罪、自分の努力の空しさに疲れ切っているかのような喘ぎのような言葉が入っています。31章に、王レムエルが母から受けたという諭しの言葉「女に力を費やすな。強い酒を飲むな。王の義務を忘れるから。ものを言えない人、犠牲者の訴えを弁護し、貧しく乏しい人の訴えを正しく裁け」という、上に立つ者の根本的な姿勢を諭す言葉があります。これを伝えたのは、彼を愛する彼の母です。さすが、女です。